

PCB廃棄物適正処理推進に関する検討委員会

JESCO処理施設の解体撤去の進捗状況 (令和7年11月～令和8年6月)

令和8年7月6日
中間貯蔵・環境安全事業株式会社

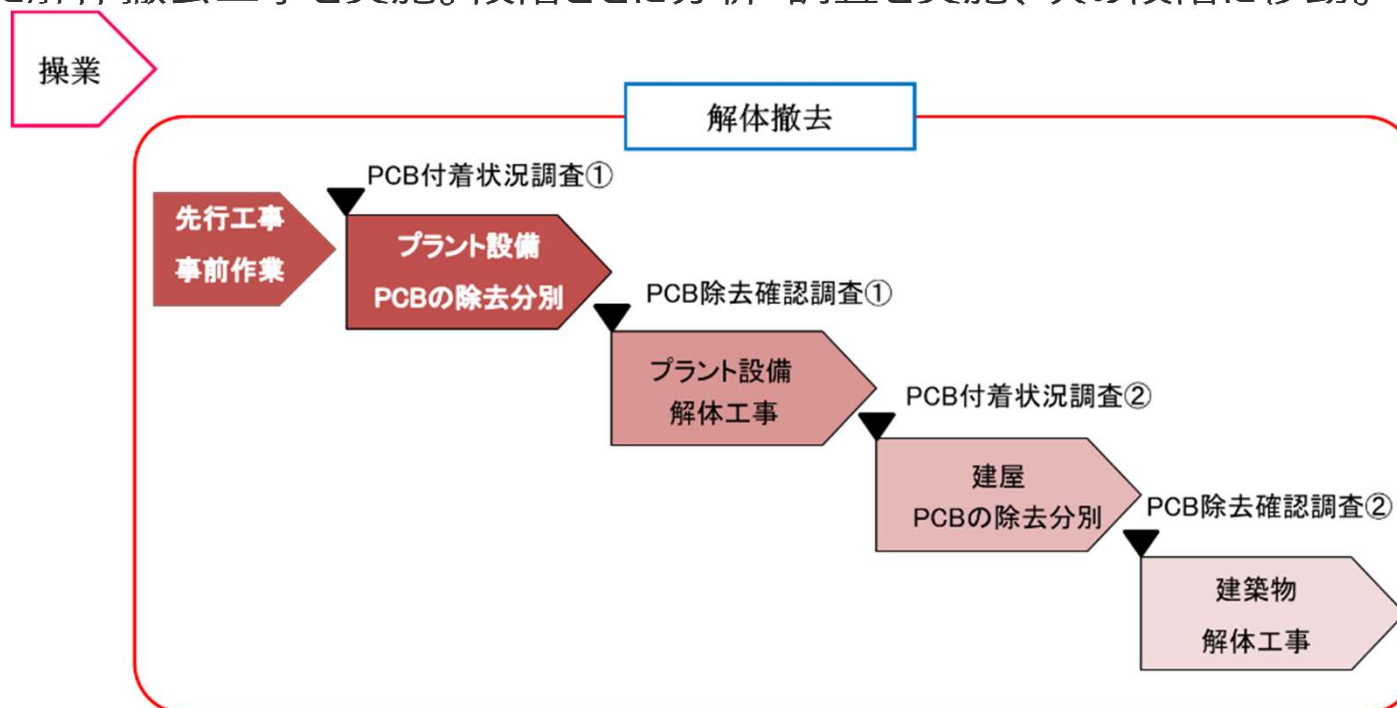
【全体概要】 基本的な考え方と解体撤去の流れ

◆ 基本的な考え方（基本方針）

環境の保全の徹底、工事における万全な安全衛生の確保、ステークホルダー等の理解と信頼の確保のための情報共有・公開

◆ 解体撤去の流れ

段階的に解体撤去を実施。先行工事・事前作業、プラント設備や建築物ごとに、PCBの除去分別を実施したのちに解体撤去工事を実施。段階ごとに分析・調査を実施、次の段階に移動。



※先行工事：プラント設備の本格的な解体撤去に先立って実施する工事で、技術実証としての不要設備の解体撤去や高濃度PCB設備の優先的解体等を目的とした先行解体撤去と、その後の解体撤去の準備として行う工事をいう。

※PCB除去分別：プラント設備、機器等に残存あるいは付着している高濃度PCBを洗浄、拭き取り等により取り除く作業。
建屋の床や壁、天井等に付着しているPCBを、拭き取りや表面の研削、はつり等により取り除く作業。

【全体概要】 解体撤去の進捗概況

- ◆ 北九州1期施設では、建築物のPCBの除去分別完了。建築物の解体撤去を実施中。
- ◆ 北九州2期施設及び大阪では、先行工事完了し、プラント設備の解体撤去を実施中。
- ◆ 豊田では、先行工事を実施中。東京では、先行工事及びプラント設備の解体撤去を実施中。
- ◆ 北海道当初施設では、先行工事を実施中。

詳細後述 (令和8年6月末時点)

		北九州		豊田	東京	大阪	北海道	
		1期	2期				当初	増設
先行工事		完了 R元～3年度	完了 R5～7年度	実施中	実施中	完了 R3～7年度	実施中	計画 R8～9年度
事前作業		完了 R元～3年度	実施中	実施中	実施中	実施中	実施中	未実施 R8～9年度
プラント設備	除去分別	完了 R3～4年度	実施中	実施中	実施中	実施中	実施中	未実施 R8～10年度
	解体撤去	完了 R4～6年度	実施中	実施中	実施中	実施中	未実施 R11～15年度	未実施 R10～13年度
建築物	除去分別	完了 R6～7年度	計画 R9～11年度	未実施 R9～11年度	未実施 R8～12年度	未実施 R9～11年度	未実施 R11～15年度	未実施 R10～13年度
	解体撤去	実施中	計画 R11～12年度	未実施 R11～13年度	未実施 R13～14年度	未実施 R11～12年度	未実施 R11～15年度	未実施 R10～13年度

【全体概要】 部会・監視会議等での審議状況

- ◆ 事業部会、技術部会及び作業安全衛生部会において、解体撤去の進め方や工事の進捗について、指導・助言・評価等をいただき、監視委員会等で報告しながら解体撤去を進めている。

(令和8年6月末時点)

事業所	事業部会・監視会議	審議及び報告状況 (◆方針・計画 ■実績)
北九州	1期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1期建屋除去分別の進捗報告 (1/21、2/2) ■ 1期建屋解体工事の進捗報告 (1/21、2/2) ◆ 周辺環境大気質D X N s類の高値出現に関する原因の検討と今後の対応 (5/27)
	2期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2期施設プラント設備の解体撤去工実施計画 (第2段階) (1/21、2/2) ◆ 2期施設建屋の解体撤去工実施計画 (1/21、2/2) ■ 2期プラント設備解体撤去工事 (第1段階) 進捗報告 (1/21、2/2)
豊田	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業部会 令和8年3月2日 ○ 安全監視委員会 令和8年3月23日 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 解体撤去工事の進捗状況 (3/2、3/23) ・ 高濃度P C B 取扱いエリア等解体撤去工事 (先行解体工事)
東京	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業部会 令和8年3月6日 ○ 環境安全委員会 令和7年12月15日 令和8年3月25日 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2025年度下期の解体撤去工事の実施状況と今後の予定 (3/6) ◆ 先行解体撤去工事に関する文書の策定 (その11) (3/6) ◆ 本格解体撤去工事に関する文書の策定 (その2) (3/6) ■ 不要設備の先行解体 (安定器等処理設備) 関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 解体撤去工事の実施結果報告書(3/6) ■ 不要設備の先行解体 (コンデンサー解体設備及び鉄心コイル破碎・分別設備) 関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 解体撤去工事の途中経過報告書(3/6) ■ 不要設備の先行解体 (除染室の抜油・排気処理設備) 関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 洗浄作業の実施結果報告書(3/6) ・ PCB 付着状況の調査報告書(3/6) ・ PCB 除去分別計画書 (3/6)
東京	当初	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第1次プラント設備解体撤去関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象設備のPCB 付着状況調査計画書(3/6) ・ 実施計画書(3/6) ■ 第2次プラント設備解体撤去関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ タンク類・配管系統の洗浄作業の途中経過報告書(3/6) ・ PCB 除去分別作業の実施計画書(3/6) ■ 建築物関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高濃度PCB取扱いエリアのPCB 付着状況調査計画書(3/6) ■ 2025年度これまでの先行解体撤去工事の実施状況及び今後の予定 (12/15、3/25委員会報告)
	増設	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業部会 令和8年2月5日 ○ 事業監視部会 令和8年3月10日 <ul style="list-style-type: none"> ■ 不要設備の解体撤去の進捗状況 (2/5、3/10) ・ 受水槽室タンク類 ・ 蒸留設備解 ・ 中間処理設備 ■ 各種モニタリング結果、安全活動等 (2/5、3/10)
北海道	当初	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PCB廃棄物処理施設の解体撤去計画の概要 (12/23) ◆ 解体撤去工事におけるモニタリングに関する基本的対応 (12/23) ◆ 解体撤去の実施予定について (12/23) ■ 解体撤去の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンデンサー解体設備 (その2) (3/11,24) ・ 大型トランスエリア等解体撤去工事 実施計画書 (3/11,24)
	増設	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PCB廃棄物処理施設の解体撤去計画の概要 (12/23) ◆ 解体撤去工事におけるモニタリングに関する基本的対応 (12/23) ◆ 解体撤去の実施予定について (12/23)

	技術部会・作業安全衛生部会	審議及び報告状況 (◇審議 □報告)
共通	○ 技術部会 令和8年5月28日	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 溶融設備の解体撤去に係る『ダイオキシン類ばく露防止対策要綱』と『解体撤去実施マニュアル』の基本的考え方の整理 ◇ 北九州1期施設解体撤去に伴う払い出しによるPCBの排出について
	○ 作業安全衛生部会 令和7年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> □ 各事業所における解体撤去工事の実施について ◇ 解体撤去実施マニュアルの改訂 (第5版) について

【全体概要】 解体撤去物の処理

- ◆ 解体撤去物については、安全を第一に処理するとともに、PCBが含まれない解体撤去物は資源として有効に活用している。
- ◆ 北九州事業所で先行解体を開始以降、令和7年度末時点で、全事業所において、有価物1,437 t を売却し、産業廃棄物2,330 t の処理を委託、低濃度PCB廃棄物3,861 t を無害化処理認定施設へ払出している。

(単位：t)

解体撤去物の種類	北九州		豊田		東京		大阪		北海道		合計
	2019-2024 R1-R6	2025 R7※	2023-2024 R5-R6	2025 R7※	2023-2024 R5-R6	2025 R7※	2021-2024 R3-R6	2025 R7※	2023-2024 R5-R6	2025 R7※	
有価物（売却）	348	228	115	33	49	103	181	339	23	18	1,437
	576		148		152		520		41		
産業廃棄物 （非PCB）	538	927	113	126	0	0	252	321	0	53	2,330
	1,465		239		0		573		53		
低濃度PCB廃棄物 （無害化処理認定施設）	2,314	16	192	216	125	403	392	168	0	36	3,861
	2,330		408		528		560		36		

※R7年度データは速報値のため変更する場合がある。端数処理の関係で合計が合わない場合がある。

【全体概要】 解体撤去の進捗概況（詳細後述）

（１）北九州事業所

【1期施設】

- 建築物のPCBの除去分別（完了）
- 建築物の解体撤去（実施中）

【2期施設】

- 先行工事
 - ・プラズマ前処理設備（完了）
- プラント設備の解体撤去（実施中）

（２）豊田事業所

- 先行工事
 - ・高濃度PCB取扱エリア（実施中）

（３）東京事業所

- 先行工事
 - ・安定器等処理設備（完了）
 - ・コンデンサー・鉄心コイル設備（実施中）
- プラント設備の解体撤去（実施中）

（４）大阪事業所

- プラント設備の先行工事
 - ・受水槽室タンク類（完了）
 - ・蒸留設備（完了）
 - ・中間処理設備（完了）
- プラント設備の解体撤去（実施中）

（５）北海道事業所

【当初施設】

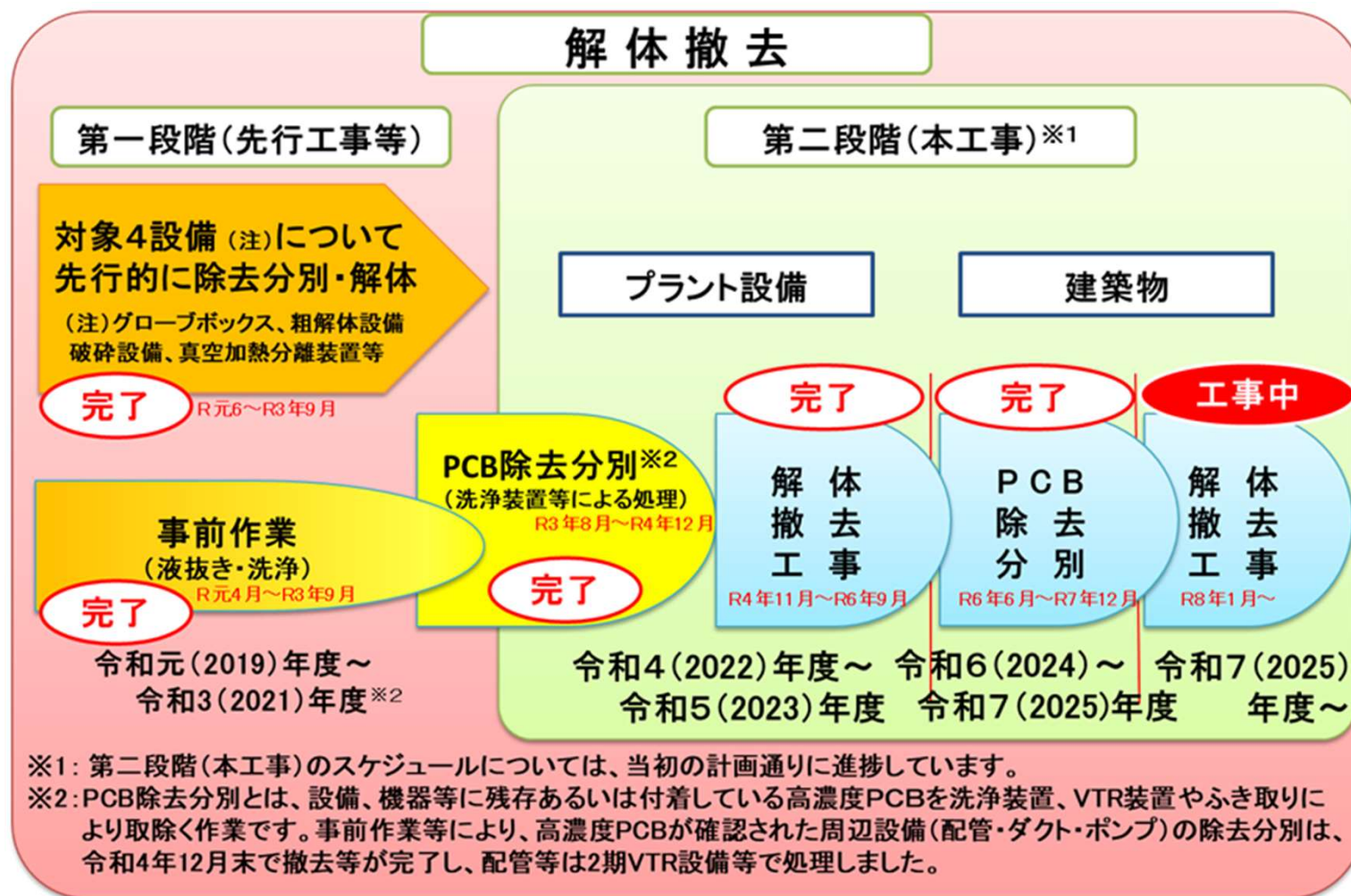
- 先行工事
 - ・コンデンサー解体エリアその2（実施中）
 - ・大型トランスエリア等（計画中）

【増設施設】

- 先行工事
 - ・プラズマ前処理設備等（計画中）

【北九州1期】 スケジュール

- ◆ 令和6年度から令和7年度にかけて、建屋のPCBの除去分別を実施した。
- ◆ 令和7年度より、建築物の解体撤去工事を開始した。



【北九州1期】 建屋のPCBの除去分別（完了）

- ◆ 建屋のPCBの除去分別を、令和6年6月から令和7年12月にかけて実施した。
 - 作業環境濃度は、作業管理濃度 $10\mu\text{g}/\text{m}^3$ より低い値であった。
 - 解体撤去工事期間中の排気ガス中のPCB濃度は、北九州市との協定値 $0.005\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ 未満であった。



- ◆ 低濃度PCBが付着しているものは、無害化処理認定施設に処理を委託した。
 - 壁、床、天井の除去分別物（約160t）、換気空調設備等及びクレーン等プラント残置物（約420t）



【北九州1期】PCB除去確認調査結果（建屋除去分別後）

- ◆ 建屋のPCBの除去分別完了後の、PCB除去確認調査（床、壁、天井）において、PCBが該当性判断基準以下であること、また、作業環境測定（除去分別対象室内）において、暫定大気環境基準未満であることを確認した。

【PCB除去確認調査結果】

測定場所	測定結果	該当性判断基準
床（コンクリート）※1	該当性判断基準以下	含有量試験：0.5mg/kg 溶出量試験：0.003mg/L
壁・天井（石膏ボード）※1		
鉄骨、建具※1		拭き取り試験： 0.1μg/100cm ²

※1 サンプルング箇所：

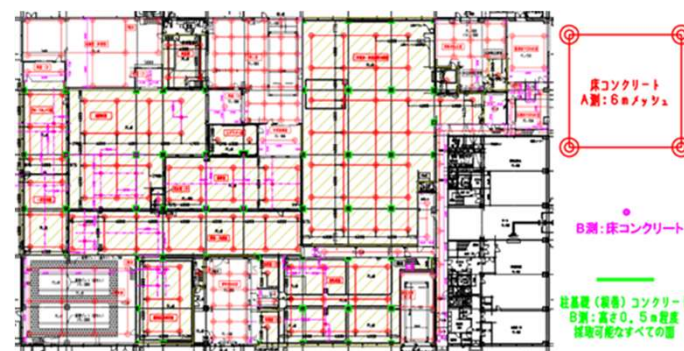
約600箇所（床）、約1500箇所（壁・天井）、約3500箇所（鉄骨、建具等）

【作業環境測定結果】

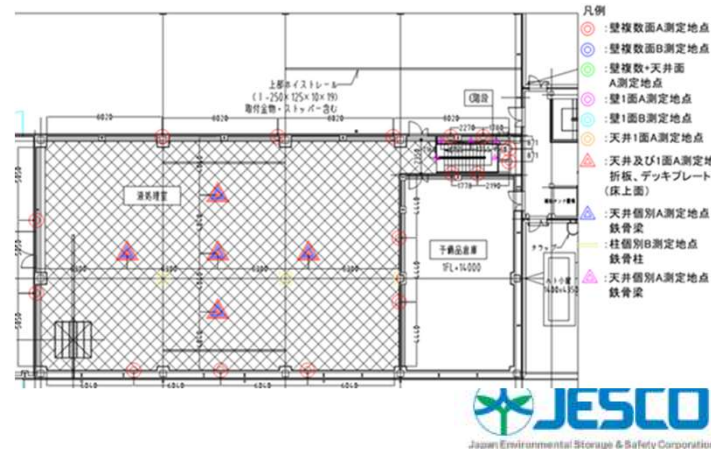
測定場所	測定結果	PCB暫定大気環境基準
除去分別対象室内 ※2 (mg/m ³)	定量下限値 (0.00017未満)	0.0005

※2 測定点：155点（1階）、75点（4階）

＜PCB除去確認調査におけるサンプルング箇所（床）＞



＜PCB除去確認調査におけるサンプルング箇所（壁、天井）例＞



【北九州1期】 建築物の解体撤去（実施中）

- ◆ 建築物の解体撤去工事を、令和8年1月から10月にかけて実施している。
 - 散水で粉じんを抑制しながら大型重機で建屋駆体を解体している。
 - 屋根と外壁を極力残し、内壁・床を先に撤去することで建屋内の雨水侵入を最小限に抑える計画。

	工期	重量 (t)
建築物	令和8年1月～10月	約6,000

俯瞰

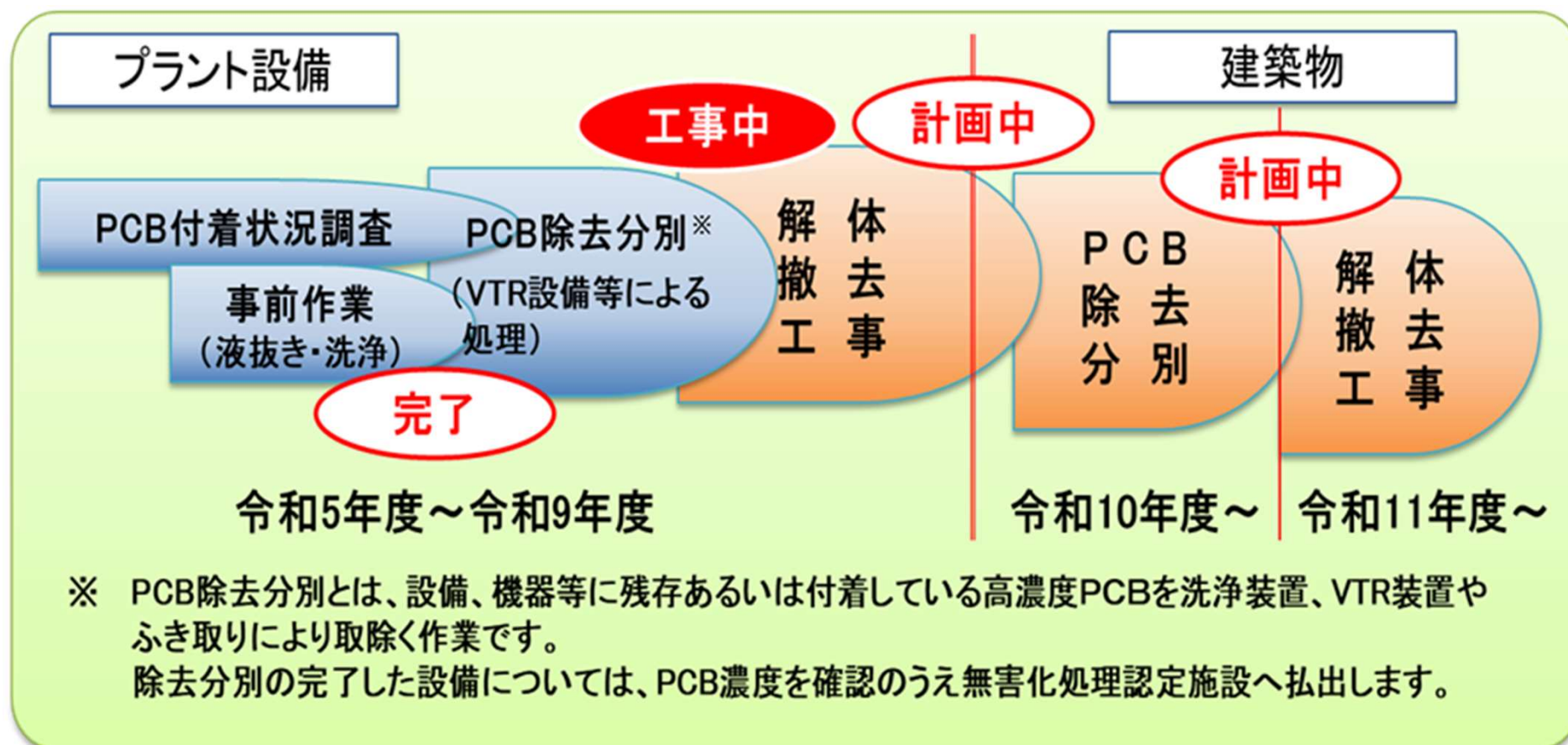


真上



【北九州2期】 スケジュール

- ◆ 令和7年度に、プラント設備の先行工事を実施した。
- ◆ 令和7年度より、プラント設備の解体撤去を実施している。



【北九州2期】 先行工事（完了）

◆ プラズマ前処理設備の解体撤去を、令和7年8月から令和8年1月にかけて実施した。

- 作業環境濃度：定量下限値（ $0.17 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満） $\mu\text{g}/\text{m}^3$ （管理濃度 $10\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）
- PCB排気濃度：定量下限値（ $0.000001 \text{ mg}/\text{m}^3\text{N}$ 未満）（北九州市協定値 $0.005\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ ）
＜参考＞ 操業時のPCB排気 $0.000022 \text{ mg}/\text{m}^3\text{N}$ 以下（H30～R1年）

解体撤去前



プラズマ前処理設備



解体撤去後



◆ 低濃度PCBが付着しているものは、無害化処理認定施設に処理を委託した。（70t）

鉄箱による払出し



【北九州2期】 プラント設備の解体撤去（実施中）

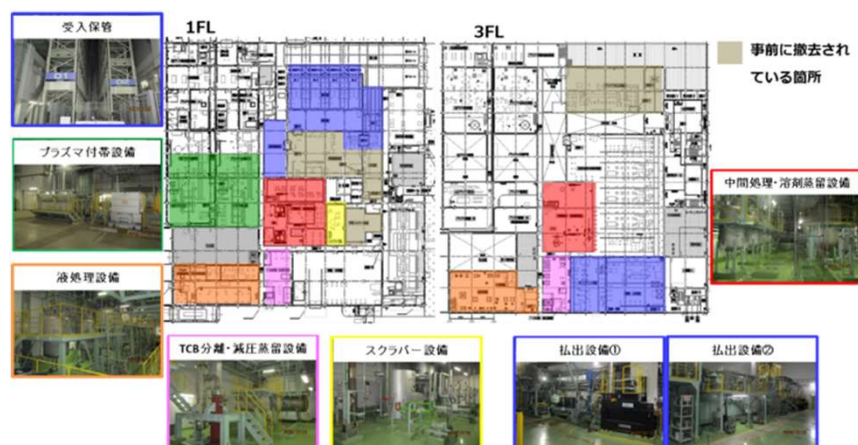
- ◆ プラント設備の解体撤去工事を、第1段階として令和7年度から令和8年度にかけて実施する。第2段階として令和8年度から令和10年度にかけて実施する計画である。

		工期	重量（t）
プラント設備	第1段階	令和7年度～令和8年度	1,100
	第2段階	令和8年度～令和10年度	2,100

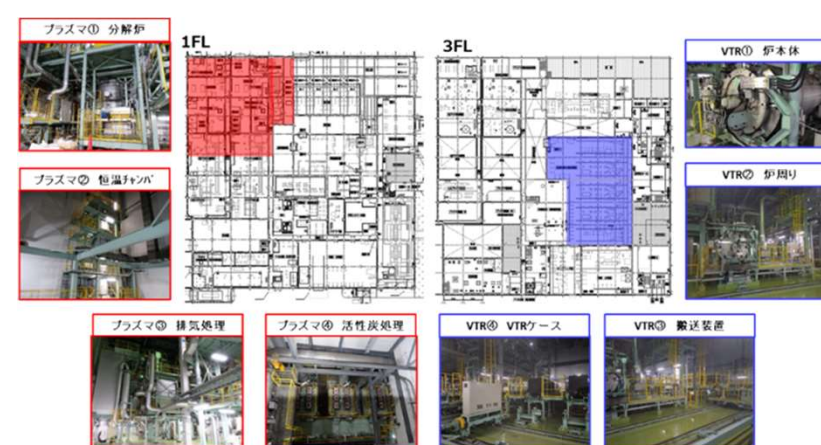
【工事対象設備】

（第1段階） 受入保管・払出設備、中間処理・溶剤蒸留設備、液処理設備、TCB分離・減圧蒸留設備、プラズマ付帯設備、スクラバー設備
 （第2段階） 上記以外の設備

【第1段階】

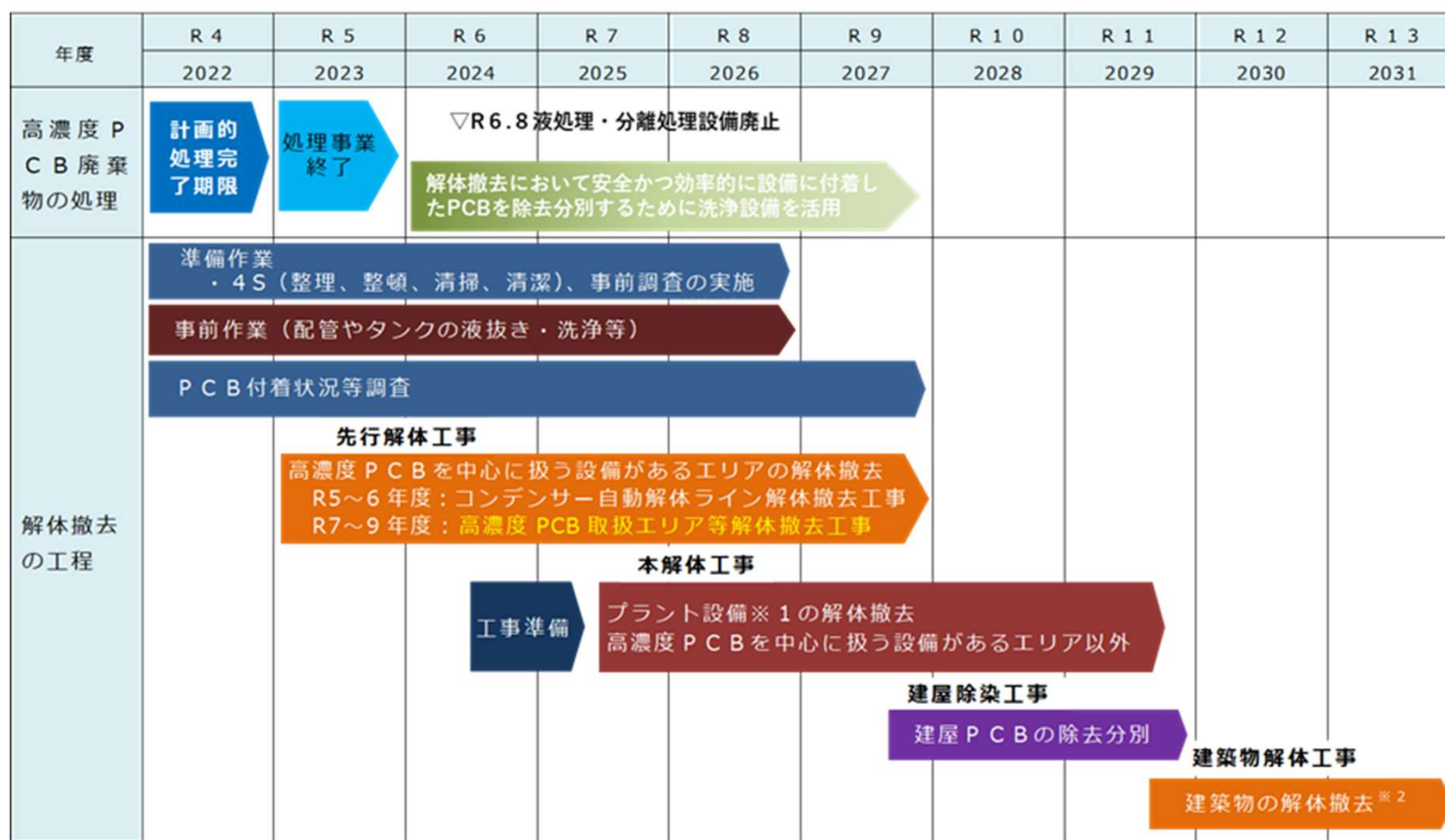


【第2段階】



【豊田】 スケジュール

◆ 令和8年度から令和9年度にかけて、プラント設備の先行工事を実施している。



※1：工程・工期等は今後の解体撤去工事の進捗に合わせて見直す。

※2：土壌汚染調査を実施し、PCB処理による汚染がないことを確認する。

【豊田】 先行工事（実施中）

- ◆ 高濃度PCB取扱エリア等の解体撤去を、令和7年10月から令和9年10月にかけて実施している。

	工期	重量（t）
高濃度PCB取扱エリア等	令和7年10月～令和9年10月	約723

【工事対象設備】

- ・超大型コンデンサブース及び特殊コンデンサー解体エリア、裁断・破砕エリア、攪拌洗浄エリアの一部（解体撤去管理レベルⅢ）
- ・大型/車載トランス解体エリア及び小型トランス解体エリア等（解体撤去管理レベルⅡ）

高濃度取扱エリア

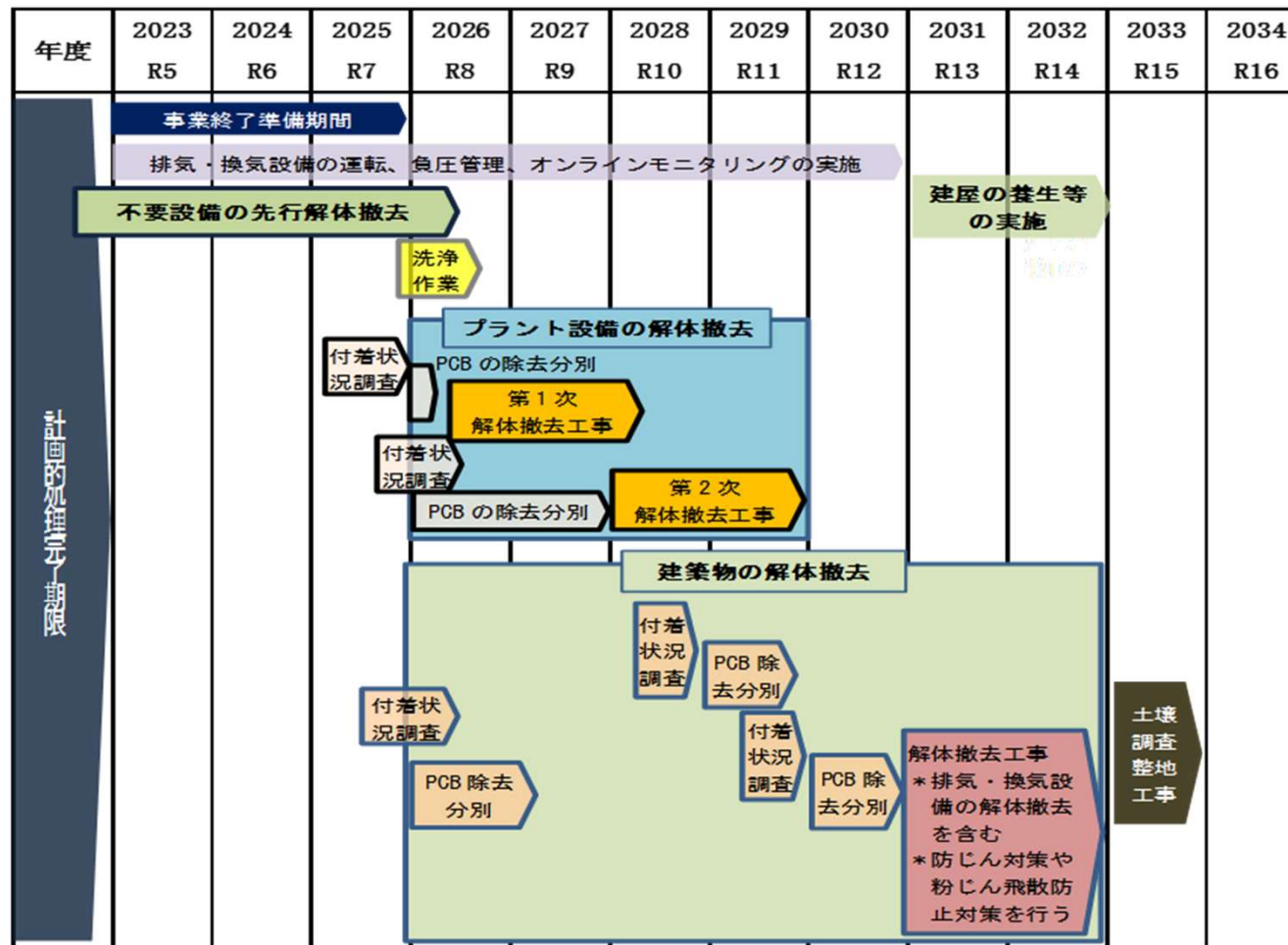


解体撤去物



【東京】 スケジュール

- ◆ 令和7年度から令和8年度にかけて、プラント設備の先行工事を実施している。
- ◆ 令和8年度より、プラント設備の解体撤去を実施している。



【東京】 先行工事（完了）

◆ 安定器等処理設備の解体撤去を、令和7年6月から令和8年1月にかけて実施した。

- 作業環境濃度：定量下限値（0.5未満）～8.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ （作業環境管理濃度10 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）
- PCB排気濃度：定量下限値（0.0005未満）～0.0009 $\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ （管理目標値0.01 $\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ ）
＜参考＞ 作業時のPCB排気 定量下限値（0.0005未満）～0.0017 $\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ （R2～R4年）

解体撤去前



安定器等処理設備



解体撤去後



◆ 低濃度PCBが付着しているものは、無害化処理認定施設に処理を委託した。（199t）

鉄箱による払出し



【東京】 先行工事（実施中）

- ◆ コンデンサー解体設備及び鉄心コイル破砕・分別設備の解体撤去を、令和7年12月から令和8年9月にかけて、解体撤去管理レベルⅡで実施している。

	工期	重量（t）
コンデンサー解体設備 及び鉄心コイル破砕・分別設備	令和7年12月～令和8年9月	314

解体撤去前

解体撤去後

コンデンサー
解体設備



鉄心コイル破砕
・分別設備



【東京】 プラント設備の解体撤去（実施中）

- ◆ プラント設備の解体撤去工事を、第1次解体撤去として令和8年度から令和9年度にかけて実施している。
- ◆ 第2次解体撤去として令和10年度から令和11年度にかけて実施する計画である。

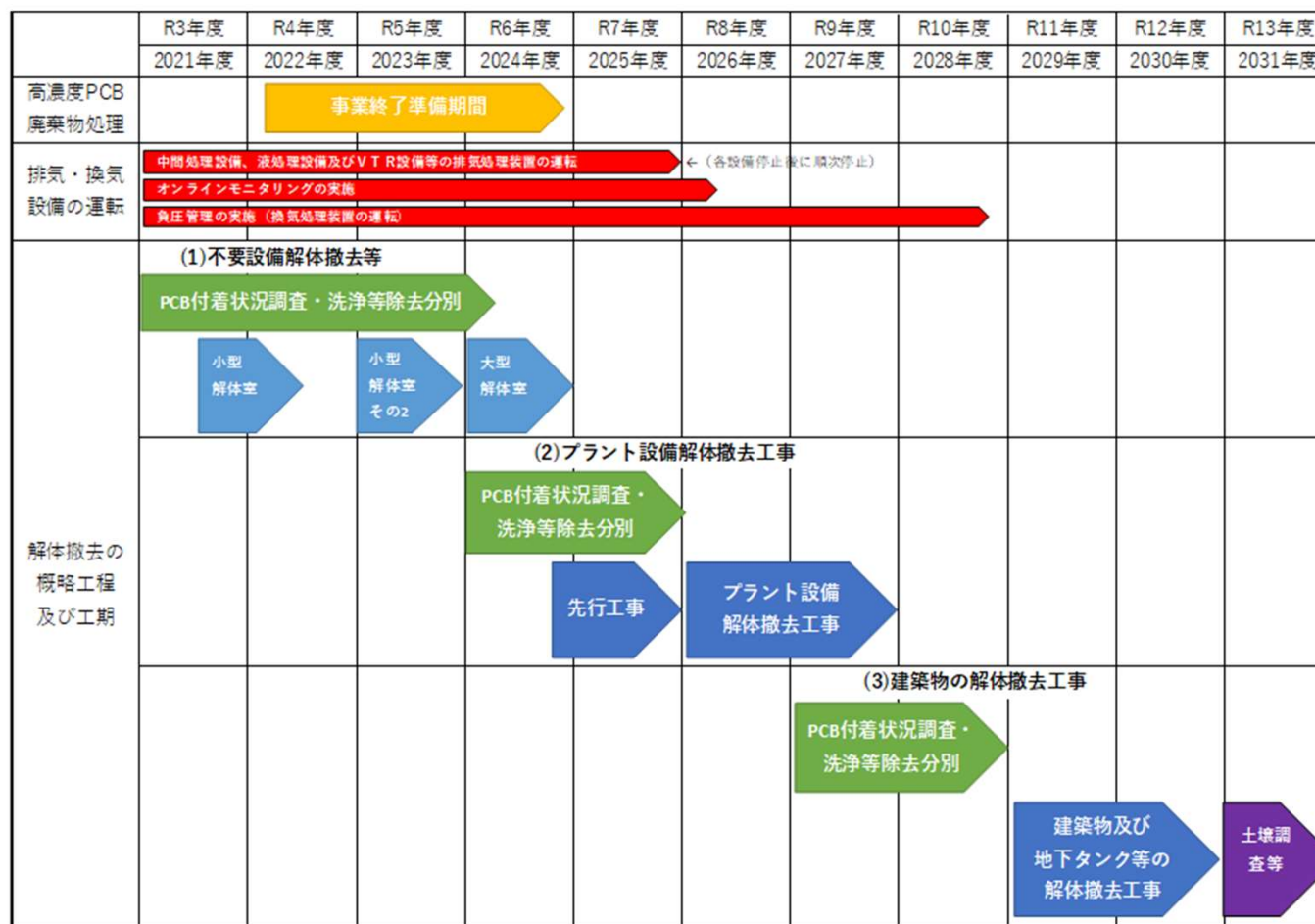
		工期	重量（t）
プラント設備	第1次	令和8年度～令和9年度	約2,900
	第2次	令和10年度～令和11年度	約4,700

【工事対象設備】

- （第1次） 解体撤去物の払出しの平準化等のため、解体工事着手基準以下の、PCB除去分別が不要な設備とする。
- （第2次） それ以外の工事を対象とする。

【大阪】 スケジュール

- ◆ 令和7年度に、プラント設備の先行工事を実施した。
- ◆ 令和8年度より、プラント設備の解体撤去を実施している。



- ※1 営業物処理をR5年度末終了
 ※2 建築物の解体撤去工事には地中杭の撤去は含まず
 ※3 工期・工程は、解体撤去工事の進捗状況に合わせて見直す

【大阪】 先行工事（完了）

◆ 受水槽室タンク類の解体撤去を、令和7年6月から8月にかけて実施した。

- 作業環境濃度：定量下限値（0.5未満 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）（管理濃度 $10\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）
- PCB排気濃度：定量下限値 $0.0000074 \text{ mg}/\text{m}^3\text{N}$ （管理目標値 $0.01\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ ）
＜参考＞ 操業時のPCB排気 定量下限値 $0.0000037\sim0.0017 \text{ mg}/\text{m}^3\text{N}$ （H19～H21年）

解体撤去前



受水槽室タンク類



解体撤去後



◆ 所内で真空加熱分離装置（VTR）処理を行い、PCBが除去されたものは有価物として売却した。（8t）

VTR処理前



トレイによる払出し



VTR処理後



【大阪】 先行工事（完了）

◆ 蒸留設備の解体撤去を、令和7年7月から12月にかけて実施した。

- 作業環境濃度：定量下限値（0.5未満 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）（管理濃度 $10\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）
- PCB排気濃度：定量下限値 0.0000049 $\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ （管理目標値 $0.01\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ ）
＜参考＞ 作業時のPCB排気 定量下限値 0.0000037～0.0017 $\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ （H19～H21年）

解体撤去前

蒸留設備



解体撤去後



◆ 所内で真空加熱分離装置（VTR）処理を行い、PCBが除去されたものは有価物として売却した。（28t）

トレイによる払出し



【大阪】 先行工事（完了）

◆ 中間処理設備の解体撤去を、令和7年7月から令和8年3月に実施した。

- 作業環境濃度：定量下限値（0.5未満 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）（管理濃度 $10\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）
- PCB排気濃度：定量下限値 0.0000086 $\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ （管理目標値 $0.01\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ ）
＜参考＞ 操業時のPCB排気 定量下限値 0.0000037～0.0017 $\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$ （H19～H21年）

解体撤去前

中間
処理
設備



解体撤去後



◆ 所内で真空加熱分離装置（VTR）処理を行い、PCBが除去されたものは有価物として売却した。（56t）

トレイ
による
払出し



VTR処理前



VTR処理後

【大阪】 プラント設備の解体撤去（実施中）

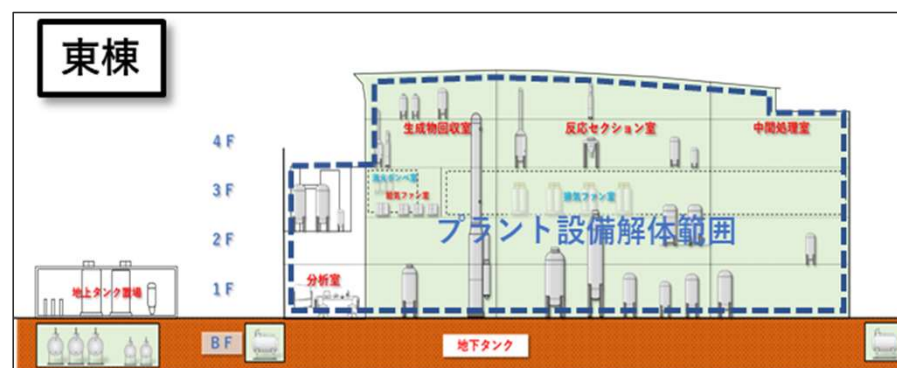
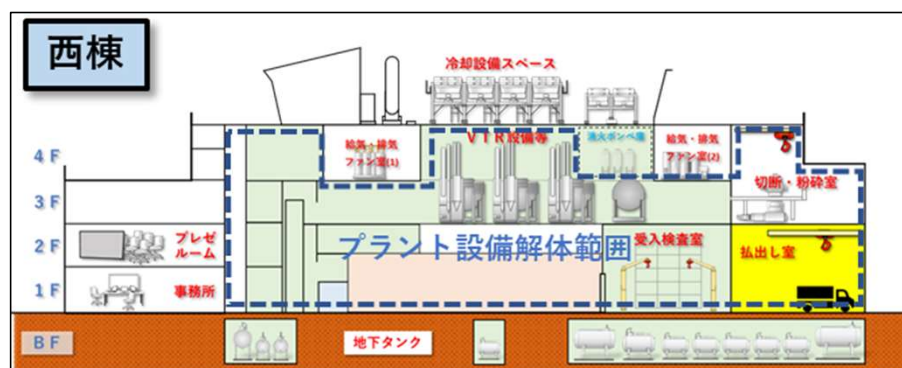
◆ プラント設備の解体撤去を、令和8年度から令和9年度にかけて実施している。

	工期	重量（t）
プラント設備	令和8年度～令和9年度	2,000

【対象設備】

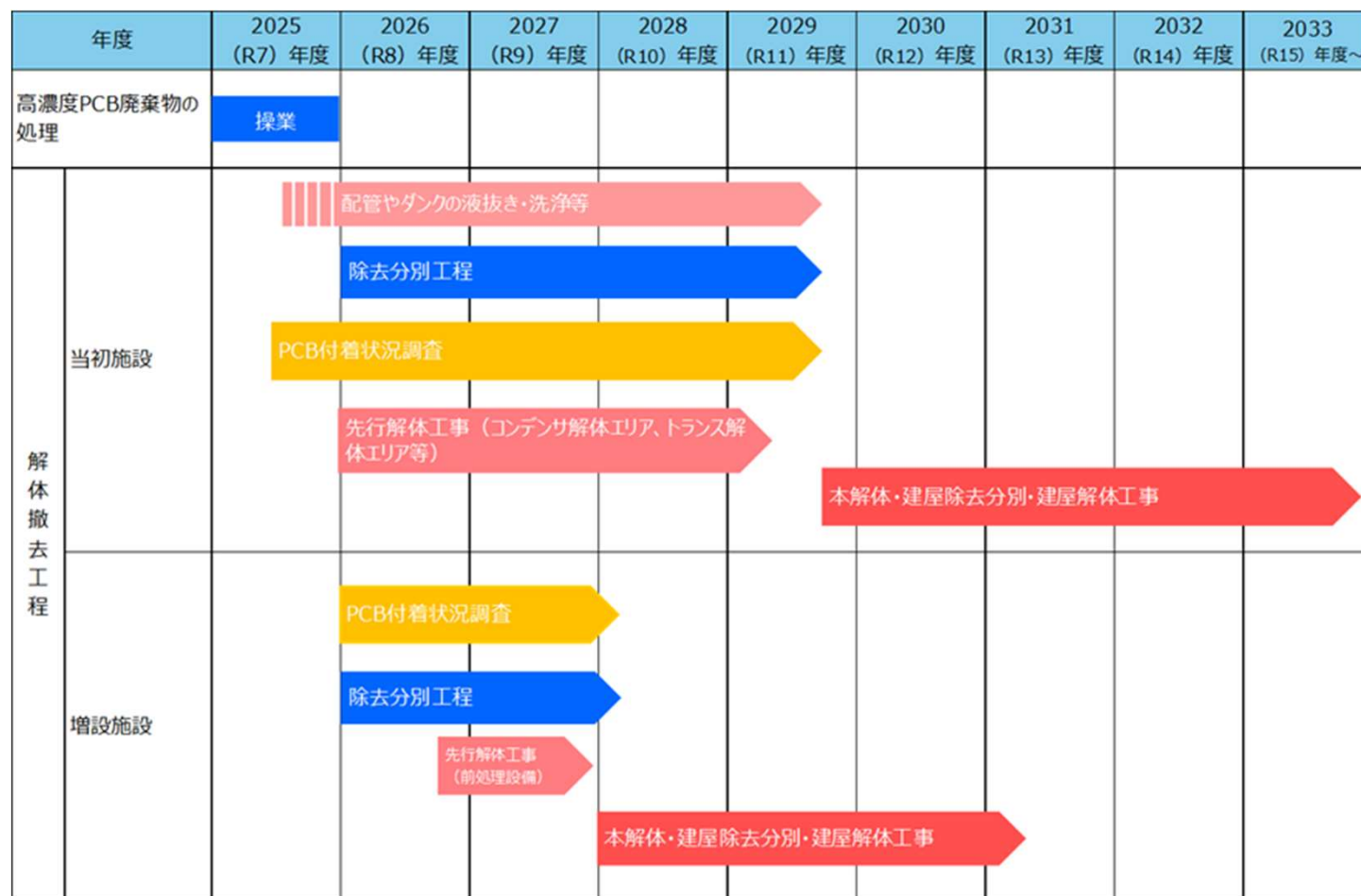
西棟のポンプピット室、受入検査室、VTR処理室等、東棟の中間処理室、反応セクション、生成物回収室等

<プラント設備の解体範囲>



【北海道】 スケジュール

- ◆ 当初施設では、プラント設備の先行工事を実施している。
- ◆ 増設施設では、プラント設備の先行工事を計画している。



※上記工程には、杭等地下工作物の撤去工事は含まれていません。
 ※上記工程は、今後の進捗、検討状況等により変更することがあります。

【北海道当初】 先行工事（実施中）

- ◆ コンデンサー解体設備その2の解体撤去を、令和8年2月から令和9年2月にかけて実施している。
- ◆ 大型トランスエリア等の解体撤去を、令和9年4月から令和11年3月にかけて実施する計画である。

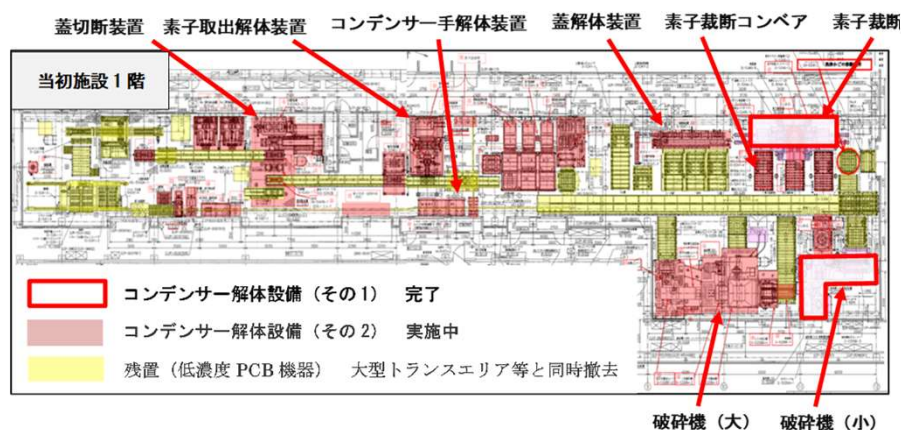
	工期	重量（t）
コンデンサー解体設備その2 ※1	令和8年2月～令和9年2月	約100
大型トランスエリア等 ※2	令和9年4月～令和11年3月	約720

【工事対象設備】

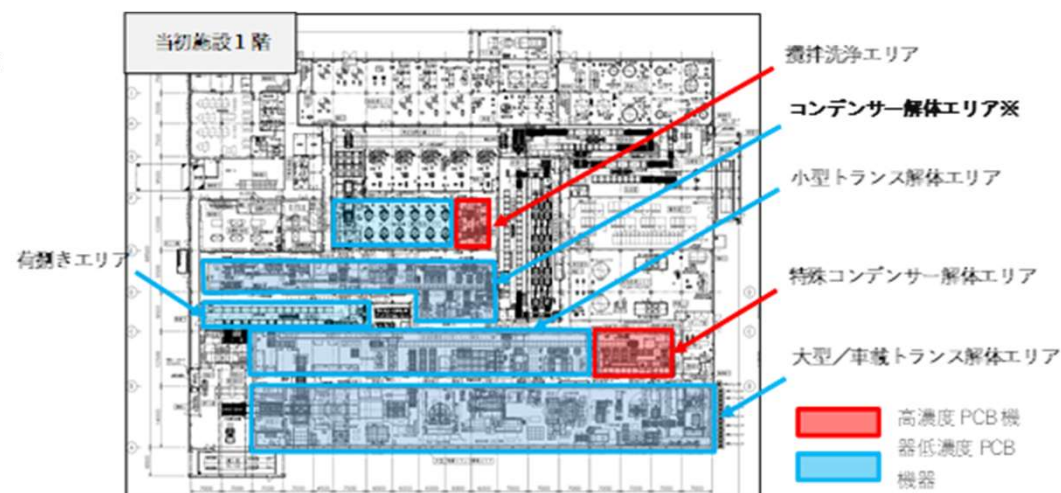
※1 破砕機（大）、蓋切断装置、素子取出解体装置、蓋解体装置、コンデンサー手解体装置

※2 大型／車載トランス解体エリア、小型トランス解体エリア、特殊コンデンサー解体エリア、コンデンサー解体エリア、攪拌洗浄エリア、荷捌きエリアにある機器

（コンデンサー解体設備その2）



（大型トランスエリア等）



※コンデンサー解体設備（その2）の残置物が対象。その他エリアは全設備が対象

【北海道増設】 先行工事（計画）

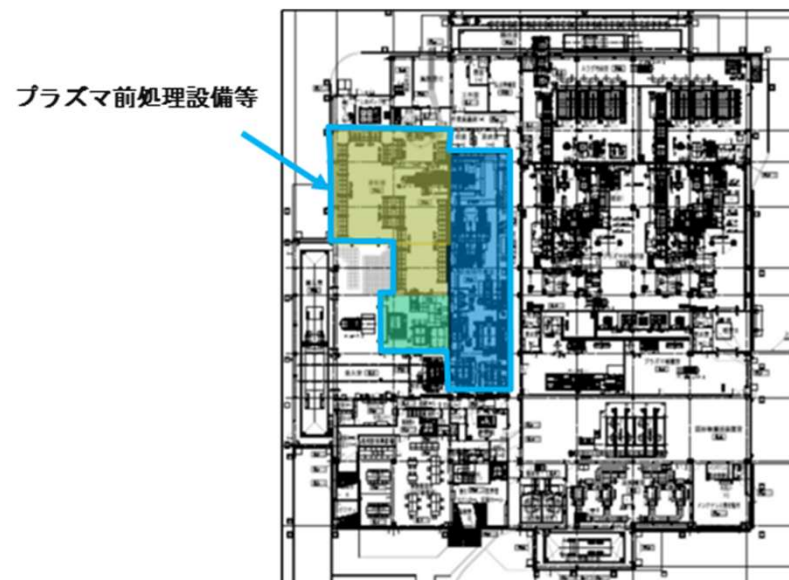
- ◆ プラズマ前処理設備等の解体撤去を、令和9年1月から7月にかけて実施する計画である。

	工期	重量（t）
プラズマ前処理設備等	R9年1月～7月	約110

【工事対象設備】 前処理作業室、荷捌室、検査室



（プラズマ前処理設備等）



【技術部会】プラズマ溶融分解設備の解体撤去に係る『解体撤去実施マニュアル』の運用の整理

1. 経緯

- 令和6年9月発行の解体撤去実施マニュアル（改訂第2版）に、プラズマ溶融分解炉にPCBが付着していないことを前提に次のように整理したところ。
「 先ずPCB 付着が想定されるプラズマ前処理に関して、解体撤去実施マニュアルに基づき、除去分別と解体撤去を実施する。その後にプラズマ溶融分解炉について、ダイオキシン類対策要綱に従って作業することを基本とする。」
- その後、北九州PCB処理事業所（2期施設）のプラズマ溶融分解設備等の解体撤去工事の設計業務を進めるためPCB付着状況調査を進めた結果、一部の機器に該当性判断基準を僅かに超えるPCBが付着していることが確認された。

2. プラズマ溶融分解設備のPCB付着状況調査結果

○機器内面

- ・ プラズマ分解炉等の内面に耐火物があり、1系の耐火物下の鉄皮14か所を対象に調査を行い、プラズマ分解炉炉蓋1箇所から低濃度PCB（ $0.56\mu\text{g}/100\text{cm}^2$ ）を検出した。（炉蓋は計5箇所分析）
- ・ 排ガス系統とダスト搬出系統の鉄皮表面は、54箇所全てで該当性判断基準以下であった。

○機器外面

- ・ プラズマ分解炉、減温塔などの機器外面57箇所の調査を行い、右の箇所から低濃度PCBを検出した。

機器名称	分析結果
プラズマ分解炉（5箇所）	$0.39\sim 0.90\mu\text{g}/100\text{cm}^2$
減温塔（4箇所）	$0.15\sim 6.1\mu\text{g}/100\text{cm}^2$
ダスト排出系統（3箇所）	$0.24\sim 0.49\mu\text{g}/100\text{cm}^2$

- ・ 推定原因としては、機器内面については耐火物を取外しや鉄皮を露出させる際、何らかの要因により表面にPCBが接触、転移したことが可能性の一つとして想定できる。
→ PCB付着状況を確実にを行い、耐火物撤去時のコンタミ防止等の管理を徹底する。

【技術部会】プラズマ溶融分解設備の解体撤去に係る『解体撤去実施マニュアル』の運用の整理

- ・ 機器外面については、プラズマ分解炉や減温塔は、メンテナンス時を含めて人が触れやすい部位であったため、手袋等に付着していたPCBが、天板は安全靴の裏に付着したPCBが転移したことが可能性の一つとして考えられる。→PCB付着状況調査を行い、PCBの対策も適切に実施する。



1系プラズマ分解炉炉蓋(耐火物下鉄皮)



1系プラズマ分解炉 (側面)



1系減温塔 (下段)



上部ホッパ天板

3. 基本的考え方の整理

- その結果、令和8年5月の技術部会にて、基本的考え方を次のよう整理した。
「先ずPCB付着が想定されるプラズマ前処理に関して、解体撤去実施マニュアルに基づき、除去分別と解体撤去を実施する。その後にプラズマ溶融設備について、該当性判断基準を超えるPCBが存在しない場合は、ダイオキシン類対策要綱を単独適用し、該当性判断基準を超えるPCBが存在する場合は、解体撤去実施マニュアルのPCBレベルに応じた該当部分を並行適用し、作業することを基本とする。」
- ダイオキシン類ばく露防止対策と解体撤去実施マニュアルで、それぞれ記載内容が重なっている項目（例：保護具の選定）は、安全側の条件を採用する。また、それぞれ独立した考えのもとに設定されるもの（例：管理区域/レベル設定）は、双方の条件を各々適用する。

【技術部会】プラズマ溶融分解設備の解体撤去に係る『解体撤去実施マニュアル』の運用の整理

(例) ダイオキシン類ばく露防止対策要綱レベル2、かつ解体撤去管理レベルⅡの場合

- ・保護マスク：保護マスクは双方同等であるため、防じん機能を有する防毒マスクを採用。
- ・保護衣：液状のPCBが付着する可能性がない場合は作業服であるが、粉じんが存在するため、浮遊固体粉じん防護用密閉服を採用。

ダイオキシン類ばく露防止対策要綱	解体撤去実施マニュアル
○呼吸用保護具 防じん機能を有する防毒マスク又はそれと同等以上の性能を有する呼吸用保護具	○保護マスク（粉じん発生作業） 半面体マスク（防じん機能付き防毒マスク）
○保護衣 浮遊固体粉じん防護用密閉服（JIS T 8115 タイプ5）で耐水圧1000mm以上を目安とすること。ただし、直接水にぬれる作業については、スプレー防護用密閉服（JIS T 8115 タイプ4）で耐水圧2000mm以上を目安とすること。	○保護衣 作業服、液状のPCBが付着する可能性がある場合は化学防護服（JIS T8115タイプ3又は4）

4. 今後の対応

- ダイオキシン類ばく露防止対策要綱を単独で適用した場合と並行して適用した場合とを比較すると、PCBを考慮した作業管理や作業環境管理を行う必要は生じるが、ダイオキシン類ばく露防止対策要綱の対策と解体撤去実施マニュアルの対策は、同程度の管理を行っていたことから工事的な対策が強化される部分はない。
- ダイオキシン類ばく露対策要綱と解体撤去実施マニュアルを組み合わせ、安全側の条件を特記仕様書に書きこむ形で対応する。